

研究活動

各学芸員の研究活動のうち、その成果が発表されたもの（論文・口頭発表）を記載する。ただし、一般の新聞・雑誌などへの寄稿や、図録等の作品解説などは除いている。

小針由紀隆

- ・「ドメニキーノと G.B.アグッキー 《エルミニアと羊飼い》の風景描写をめぐる一考察」『静岡県立美術館紀要』第18号（平成15年3月）

飯田 真

- ・「日本文人画にみる点表現 池大雅を中心に」『きらめく光展』図録（静岡県立美術館／平成15年2月）

山下善也

- ・「富士の絵、その展開と諸相」『富士山と日本人』（青弓社／平成14年5月）
- ・「風景画にみる探幽の魅力と先駆性 写生と本画をとおして」『狩野探幽展』図録（日本経済新聞社・東京都美術館／平成14年10月）
- ・「狩野探幽筆 一ノ谷合戦、二度之懸図屏風」『国華』1284号（狩野探幽特輯号）（国華社／平成14年10月）
- ・研究ノート「霧を晴らしてくれたもの 新出の狩野派合作図紹介をふりかえって」『アマリリス』No.67（静岡県立美術館ニュース／平成14年10月）

南 美幸

- ・「ロダンとオリエント 視覚芸術とパフォーマンス・アーツの関係から」『鹿島美術研究 年報第19号別冊』（平成14年11月）

李 美那

- ・「今、この場所から」『今、ここにある風景展』図録（静岡県立美術館／平成14年7月）
- ・「ヒキダシタイ・プログラム・コンセプト」『ヒキダシタイ・プログラム活動報告書』（静岡県立美術館／平成15年3月）
- ・「金乗駿（キム・ビョンギ）氏へのインタビュー」『静岡県立美術館紀要』第18号（平成15年3月）
- ・研究ノート「展覧会にかかわる普及事業の一例 社会との連携と美術館の社会的認知にむけて」『アマリリス』No.69（静岡県立美術館ニュース／平成15年4月）

堀切正人

- ・「高田博厚の彫刻について」『静岡県立美術館紀要』第18号（平成15年3月）
- ・「展覧会ソナタ きらめく光展の共同制作と現代美術セクションの展示について」『きらめく光展』記録集（静岡県立美術館／平成15年3月）
- ・「夏休み子どもワークショップ、金沢健一《音のかけら》報告」 静岡県立美術館ホームページ

新田建史

- ・研究ノート「歌川国芳と西洋版画 類型の伝播についてのノート」『アマリリス』No.66（静岡県立美術館ニュース／平成14年7月）

泰井 良

- ・「大下藤次郎《万年橋》における点表現の違いについて」『きらめく光展』図録（静岡県立美術館／平成15年2月）
- ・「カリエ=ベルーズ工房とロダン」『関西大学 哲学』（関西大学哲学学会／平成15年3月）
- ・研究ノート「和田英作「富士」について」『アマリリス』No.65（静岡県立美術館ニュース／平成14年4月）

村上 敬

- ・「調和の幻想 新印象主義の絵画について」『きらめく光展』図録（静岡県立美術館／平成15年2月）
- ・「志賀重昂『日本風景論』と明治二十年代の油画について」『静岡県博物館協会研究紀要』第26号（静岡県博物館協会／平成15年3月）
- ・研究ノート「風景と造形芸術 「サウンドスケープ」を導きとして」『アマリリス』No.68（静岡県立美術館ニュース／平成15年1月）
- ・口頭発表「風景と造形芸術 「特別な場所」ということについて」（文芸学研究会例会／平成14年12月）

森 充代

- ・「大正期日本画における点描 今村紫紅と小野竹喬を中心に」『きらめく光展』図録（静岡県立美術館／平成15年2月）